

【汎用スポーツイベント救護マニュアル】

【マニュアルの目的と運用方針】

本マニュアルは、看護師または救急救命士が小規模スポーツイベントの現場で自立して救護活動を行うために作成されたものです。主催者や委託事業者は、本マニュアルを専門職に配布することで、安全かつ最低限必要な救護体制を構築することが可能です。

本マニュアルは以下の目的で運用されます：

- 看護師・救急救命士が迷わず現場対応できるようにする
- 主催者・委託会社が専門職に救護対応を安心して任せられるようにする
- 問い合わせがあった場合にはこのマニュアルを渡すことで説明を完結できる
- 詳細な対応やカスタマイズが必要な場合は「真心ライド」に依頼することで対応可能とする

【1. 救護活動の基本方針】

- 救護活動の最大の目的は「死者を出さないこと」。心肺停止(CPA)など重症例に対して迅速に初期対応を行う。
- 現場では「粘らない」こと。30～60分以内に回復しなければ搬送を検討する。
- 軽症者の安易な搬送は避け、緊急時に備えたリソースを温存する。
- チームワークと情報共有を徹底する。

【2. 事前準備】

服装：

- 動きやすい服装、濡れてもよいズボン、スニーカー
- 感染対策：マスク、手袋(必要に応じて)

持参物品：

- 時計、ウエストポーチ、スマートフォン(予備バッテリー)
- 聴診器(看護師・救急救命士のみ)、記録用紙
- 雨具、冷却用タオル、熱中症対策グッズ

【3. 救護体制と連絡手段】

- 各救護スタッフの役割を明確化(例:記録、観察、通報係)
 - 情報共有は携帯電話、無線、LINE グループなどで行う
 - 医療機関への相談・搬送判断に迷う場合は#7119 に連絡する
-

【4. 救護対応フローチャート】(別添図参照)

- 救護要請 → 現場評価 → 緊急度判定 → 応急処置 or 搬送判断 → 記録作成・報告
 - 緊急時は MC や運営に連絡して搬送経路を確保
-

【5. 傷病者の記録】

- 「救護記録用紙」へ全件記録(選手名、所属、傷病内容、対応内容、搬送有無など)
 - 傷病者リストとして保存(大会後の振り返りや報告資料に活用)
-

【6. よくある症状と対応】

- 熱中症:アイスタオルで全身冷却、脱水症→経口補水または搬送判断
 - 捻挫・打撲:RICE 処置(安静・冷却・圧迫・挙上)
 - こむら返り:ストレッチと水分・塩分補給
 - 過換気:腹式呼吸を誘導(ペーパーバッグ禁止)
 - 頭部打撲・骨折:バイタル確認後、必要に応じ搬送
-

【7. 業務中の注意点】

- 記録を忘れずに(時間、処置内容、症状)

- 救護所は常に最低 1 名を配置(無人にしない)
 - スタッフは交代で水分・休憩を確保
 - 救護対応中の私語や撮影は避け、現場の品位を保つ
-

【8. 詳細対応・カスタマイズについて】

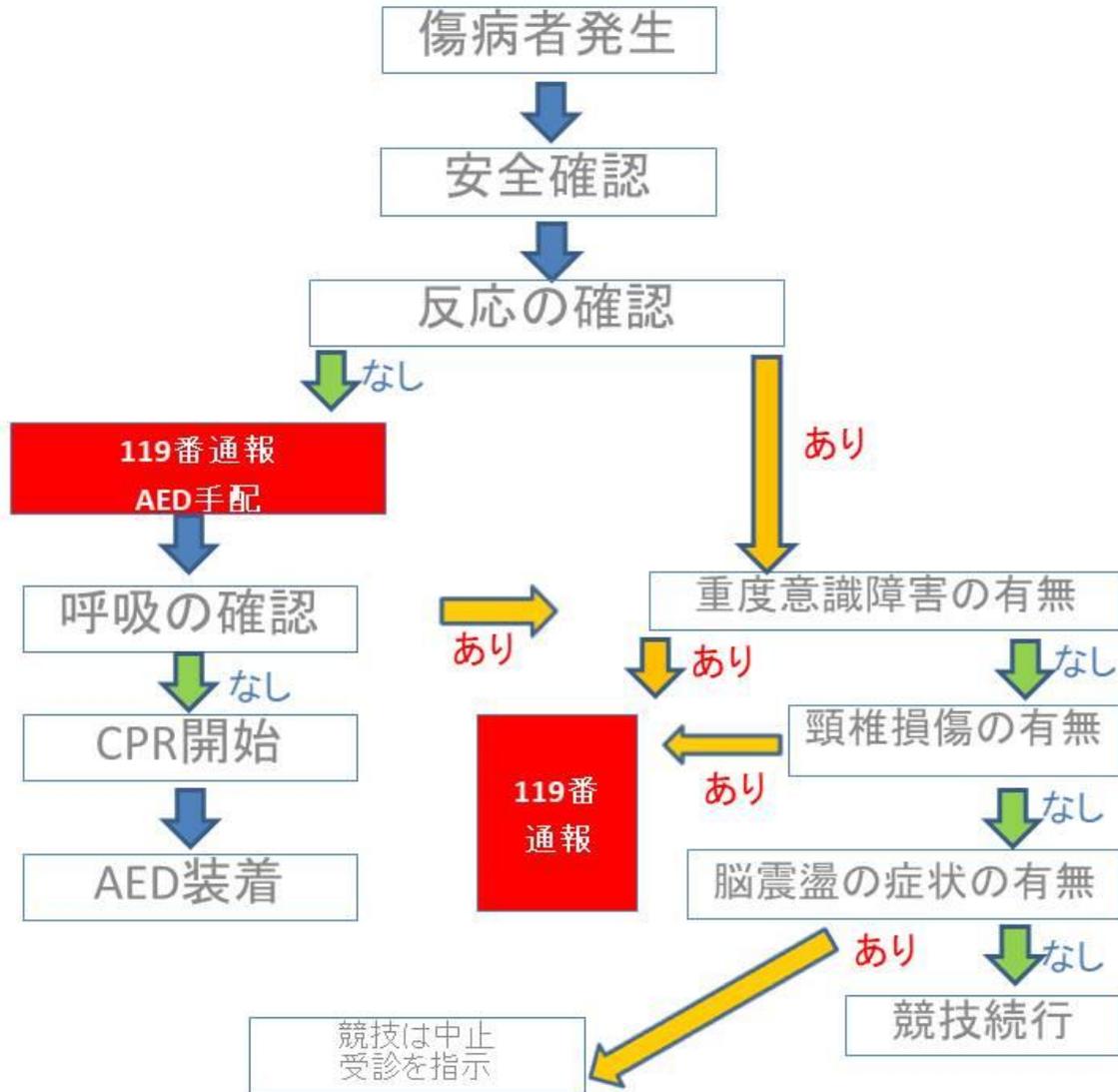
図面、搬送経路、記録用紙、EAP(緊急対応計画)などの詳細は、イベント主催者または「真心ライド」までお問い合わせください。

【参考資料】

- CSCATTT(災害時医療指揮の 7 原則)
- METHANE(現場報告フレームワーク)
- 環境省熱中症予防情報サイト:<https://www.wbgt.env.go.jp/>

このマニュアルはどの種目にも対応可能な汎用版です。現場での実践に活用いただき、不明点はお気軽にお問い合わせください。

傷病者対応フロー



意識障害例 JCS1以上 痙攣 嘔吐など	頸椎損傷例 後頸部の痛み 四肢の痛み、しびれ、異常知覚 脱力など	脳震盪例 頭痛、めまい、嘔気、複視、意識障害、前向性健忘、ふらつきなど
--------------------------------------	--	---